

課題名：暑さに強く、抽苔し難いワケネギ新系統

研究期間：平成 22 年～25 年

担当者：東京都農林総合研究センター 園芸技術科 野菜研究チーム

沼尻勝人・野口 貴・海保富士男

1. 目的

都内のワケネギ生産は府中市や葛飾区で多く、市場出荷の割合が大きい品目である。市場単価は高く、安定供給と品質確保が求められ、優良種苗の確保が重要である。ウイルスフリー苗として配布されてきた在来系統は、春植えし夏に収穫する作型では分けつが細くなり、葉色も薄く、一方秋植作型では春季に抽台が多くなるため、品質面で問題があった。そこで、夏季の品質に優れるとともに、抽苔が少なく周年栽培できる系統の作出を目的として育成試験を開始した。

2. 育成経過

交配親は、秋冬植えの品質には優れるが夏季の品質低下が大きい在来系統 (W) を母親とし、抽苔は極めて多いが夏季の生育に優れる夏用系統 (N) を父親とした。1992 年に交配し、採種後、実生系統選抜を繰り返し、WN16 を選抜した。その後、抽苔し難く、夏季の生育に優れることが認められたため、仮称「系統 13」として周年栽培における生育・品質などを検討し、2012 年に育成を完了した。

3. 特性の概要

- (1) これまで周年栽培には 2 系統を使い分けていたが、育成系統を導入することで 1 系統による周年出荷が可能となる (図 1)。
- (2) 春植え (夏収穫) では、育成系統は在来系統や夏用系統よりも草丈が短く、葉色が濃く、品質が優れる。在来系統よりも分けつ数は少ないが、夏用系統と同等以上の太さと 1 本重がある (表 1、図 2)。分けつが細くなり難く、葉が厚く葉折れがし難いため在圃性は高い。
- (3) 秋植え (春収穫) では、在来系統と比較し、育成系統の抽苔率は極めて低く安定する (図 3)。本作型では在来系統に比べて偽茎が長い特徴がみられるが、生育は同等以上である (表 2、図 4)。

4. 栽培上の留意点

- (1) 乾燥条件下では、育成系統も在来系統や夏用系統と同様に生育の遅延がみられ、分けつの発生も緩慢になる。
- (2) 葉長が短いことから、近紫外線除去フィルム被覆下での栽培にも適すると考えられる。
- (3) 病害抵抗性 (主にさび病) については未確認である。

5. 具体的データ

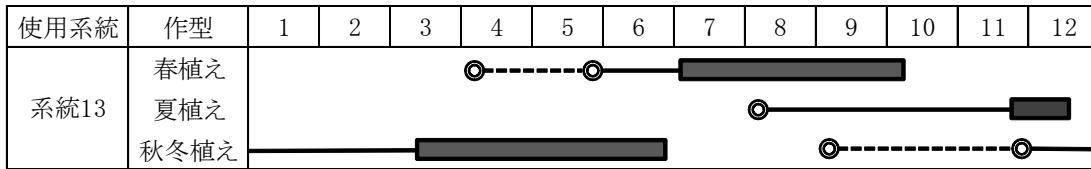


図1 系統13の作型例(露地栽培)

表1 春植え栽培における形質(露地)

系統名	草丈 (cm)	葉身長 (cm)	葉鞘長 (cm)	葉身径 (mm)	葉鞘径 (mm)	1本重 (g)	葉色 (SPAD値)
系統13	50.6 c	36.1 b	14.5 b	10.9 a	9.5 a	17.1 a	52.6 a
夏用系統	58.9 a	38.8 a	20.1 a	10.3 a	9.1 a	17.5 a	49.2 b
在来系統	54.8 b	39.9 a	14.9 b	7.7 b	7.1 b	9.3 b	44.0 c

2013年5月2日定植, 8月28日調査

Tukey法により同一項目の異なる文字間には5%水準で有意差がある(n=6)

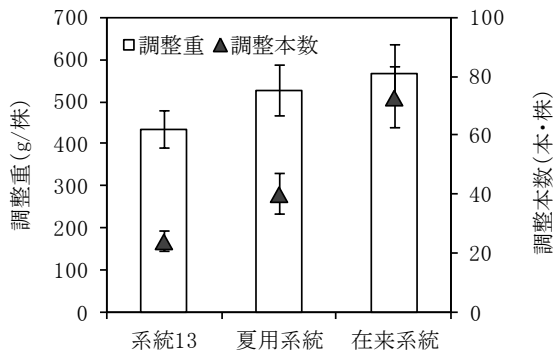


図2 春植え栽培における調整重および調整本数
定植日: 2013年5月2日、8月28日

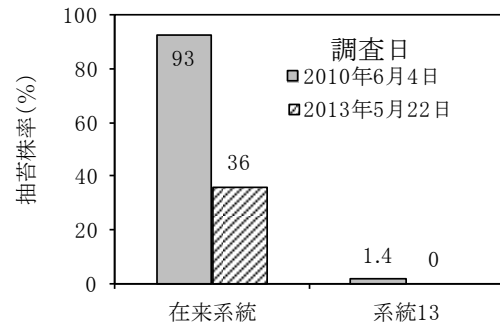


図3 秋植え栽培における抽苔株率
定植日: 2009年10月13日、2012年9月19日

表2 秋植え栽培における形質(露地)

系統名	草丈 (cm)	葉身長 (cm)	葉鞘長 (cm)	葉身径 (mm)	葉鞘径 (mm)	1本重 (g)
系統13	55.5	36.0	19.5	13.3	8.8	24.1
在来系統	52.5	37.3	15.2	12.8	9.4	24.6
T検定	n.s.	n.s.	**	n.s.	n.s.	n.s.

注) 2012年9月19日定植、2013年5月22日調査

**および*は、それぞれ1および5%で有意差があり、n.s.は有意性がないことを示す(n=6)



図4 秋植え栽培の在来系統(左)および系統13(右)
2012年9月19日定植、2013年5月9日撮影、各1株を解体後調整